

地域の文化と 創造が息づく 2つの美術館

市民に愛され続けてきた2つの美術館が2025年に大きな節目を迎えます。円筒形デザインが特徴的な本陣記念美術館と、昭和期の倉庫を活用した趣深い建物の宮本三郎美術館。地域文化が息づく2館を紹介します。

問い合わせ

本陣記念美術館 ☎22・3384

宮本三郎美術館 ☎20・3600



35周年

本陣記念美術館

1990年に開館し、市出身の銀行家・本陣甚一氏が収集した美術品を中心に収蔵・展示しています。開館前に本陣氏から寄贈された137点の美術品に加え、開館後の数回にわたる寄贈により、現在では1,000点以上の美術品が収蔵されています。建物は建築家・黒川紀章氏の設計によるもので、円筒形の斬新なデザインが特徴的です。年4回程度の企画展を開催し、多岐にわたる本陣氏のコレクションを季節ごとに内容を変えて紹介しています。



25周年

宮本三郎美術館

市出身の画家・宮本三郎のご遺族から100点以上の作品が市に寄贈されたことを機に建設が進められ、2000年に開館しました。少年時代から並外れたデザイン力を持ち、「色彩の魔術師」とも評された宮本三郎の世界観が楽しめます。また、1941年(昭和16年)に建築された倉庫を活用した建物と、開館時に建設された前面に多くのガラスを使った建物があり、歴史的建造物と現代的建造物が対照的に並びつつも調和のとれた景観が特徴的です。

2館合同 特別展も絶賛開催中!

イチキュウゼロゴ 一九〇五 二代松本佐吉と宮本三郎

小松の九谷焼窯元の一つであった松雲堂の四代・二代松本佐吉と、市出身で昭和の洋画界を代表する画家の一人・宮本三郎。同じ1905年生まれの2人について、近代美術工芸の歴史や当時の社会情勢などを垣間見ながら、戦後の活動を中心に紹介します。

本陣記念美術館



▲二代松本佐吉
《緑地釉裏金彩魚文大》

宮本三郎美術館



▲宮本三郎《婦人座像》

詳しくはP16へ